



『船...インと見えて...』

『いいよ、見せてあげる
手伝ってあげるね♡』

『ふっ♡
ふっ♡』

ちゅー♡ ちゅー♡
ちゅー♡ ちゅー♡

ふっ っ
ふっ っ
ふっ っ



『ママッ……ママア……！
もうっ……あっ、うっああっ』

『どうしたの？♥
そんなにかくつかせて
ママちゃんを見ててあげるから
いっぱい出しなさい♥
ずっとあたしにこうされる事想像して
毎日オナニーしてたんでしょ♥』

『ママでオナニーしちゃう
悪いおちんちんはお仕置きして
あげなくちゃ♥
このくっさい包茎おちんちんから
あと何回白いのが出るか
ずっと見ててあげるからね♥』



ハイ...

「あらほく、もしかして迷子？
空き家だと思って入ってきたのかな？
ざーんねんここはお姉さんのおうちなんだワ♥」

「迷子だったらお姉さんが途中まで
送ってってあげようか♥」

ちやん...

「それとも、なんかイケない事企んで来たのかな？
いやん、ドコ見てるの♥
お姉さんこれからお着替えたから、
こどもは見ちやダメだソ♥」

しんわの...

むわあ...







おっほっほっ
おっほっほっ

おっほっほっ

おっほっほっ

またか...
心おわん
おっほっほっ

おっほっほっ
おっほっほっ

おっほっほっ
おっほっほっ

「あんツ♥ もう、また中に出してえ
—そんなにお姉さんの事妊娠させたいの...♥—」

グニッ
グニッ
グニッ
グニッ

は—は—

「お姉さんはいくつもお産したから
今回こそは帰りをさっさと...」

ちよ...また
また...

トリッ
ビクッ

おっほっほっ
おっほっほっ

グビッ

おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ
おっほっほっ